

【日 時】令和2年11月10日(火) 10:45～11:35

【場 所】小会議室

【参加者】牛丸僚子(司会者)、工藤正隆、秋山恵美、三浦玲、
伊藤崇志(授業者)、畠山瑠美子(記録)

1. 授業者(伊藤 崇志先生)から

[反省点]

- ・グループ活動後、1つ1つの班の発表を聴いて板書してまとめるの流れに時間が掛かり過ぎ、まとめきれずに強引に終わったのが残念。
- ・グループ活動では、想定以上のよい意見が出ており、活かすようなまとめが出来れば良かった。
- ・前半導入でもっとテンポ良く進めば良かった。また、語句のまとめがその後の活動と関わらなかったため本時では扱わず、グループ活動に焦点を充てて実施すれば良かった。
- ・緊張や焦りが生徒に伝わり、気を遣わせてしまった。

2. 協議会参加者より、助言・指導

(工藤先生)

良かった点

- ・先生が緊張しているようにも生徒が気を遣っているようにも見えなかった。生徒は自由に発想して意見を言っていた。先生もそれをよく引き出しておりみていて楽しかった。生徒が気楽に話せているところが良かった。
- ・板書はポイントが押さえられており、書くのものはやくて見やすかった。
- ・普段の授業の流れの様子が見られて良かった。

改善点

- ・やりたいことがグループ活動であるならば、そこにいたるまでの前置きが長かった。
- ・筆者は「識字率が増えるから人口が減る」と言っているが、生徒からは「人口減るから識字率が増える」という考えが出てきて、どちらも汲み上げまともらなくなった。筆者の意図に限定してやればまとまったのではないか。最後に指導者である伊藤先生自身の見解があってもよかった。
- ・おもしろい内容を取り扱っていたが、これは「読む授業」といって良いのか。

(秋山先生)

良かった点

- ・ペア読み、毎回やっているようだが、本人達に読ませるのはやはり大切である。
- ・用語集を活用しながら話し合いをしており、手段として有効であった。
- ・班で役割分担がなくても生徒がよく発言し、テーマに添って話し合われていた。
- ・発言を必ず誉め評価をしているところもよかった。

改善点

- ・導入部分は、挙手でどんどん発言させれば、活気もありテンポ良く進んだのではないか。
- ・生徒の読解が逆転したところをそのまま進んでしまいまともらなかった。

(島山)

良かった点

- ・生徒とのやり取り、板書、プリント、全てが丁寧な授業であった。
- ・言葉（文化、文明、～ism）を意識させる説明が良かった。
- ・資料を提示して、複数資料で考えさせているのが良かった。

改善点

- ・グループワークで出た意見を全て先生が板書するのではなく、紙やボードに書かせて貼る方がテンポ良く進んだのではないか。
- ・グループ活動は、個人思考の上で話し合い、他者の意見を聞くことで思考の深まりが見られることが理想だとすれば、今回の活動も個人思考の時間が取れば良かった。

(三浦先生)

良かった点

- ・板書が整理されていて、生徒の言葉をつかってまとめている。

改善点

- ・最後のまとめでトッドの仮説に対して「共感と感動を覚える」というところを取り上げていたが、前の部分の「感想も持っていない」という部分と噛み合わずに進む生徒もいるのではないか。
- ・自分自身、丁寧すぎる言葉遣いを注意された経験があるので、情報として提示しておく。

(牛丸先生)

提 案

- ・グループ全て発表させると他の班が飽きてしまう。縦の班で集まってさらに練ったものを発表させるのはどうか。また、マナボードで意見を見える化するのはいかがか。先生がきちんとまとめた意見とは異なるものが掲示されるが、それを使ってまとめていくことで集約されていくはずである。
- ・朝学習で扱った、アフリカの識字教育をなぜ行うかが描かれた小説との読み比べをすれば良かった。評論の本筋ではない部分を取り上げた理由はそこにあったのだから、今一度生徒に示してまとめさせれば良かった。

